

# 樹 姉 ば よ り

No.119  
2014.09



## 慈悲喜捨

吹きまよふ

野風を寒み 秋萩の

うつりもゆくか 人の心の

常康親王『古今和歌集』

吹き乱れる野風が寒いので、秋萩と同じようにあなたの心は色褪せ、散ってゆくのですね、の意。

「野風」は、秋萩の中に風が吹きこんで萩の細い枝などが入り乱れるように吹いている風のこと。あちこち吹き迷って、吹いている風ではないが、微妙なところでは、やはり「野を吹きまよふ風」、つまり「野分き」のイメージで見える方がわかりやすい。このように野の草を分けて吹くような秋の暴風を「野分」という。

「野分」は江戸時代から盛んに使われてきた季語であるが、立春より数えて二百十日から二百二十日の頃（今年は九月十一日）によく吹くとされているので、多くは台風を指している。現代でも八月下旬から九月上旬は本土に上陸する台風が多い。この時季は稲が開花・結実する大事なときで、台風が相次いで襲来し、農作物が被害を受けてしまうこともよくある。二百二十日は厄日とか荒れ日などと言われ、一つの目安として警戒を呼びかけていた。

二百十日が厄日として曆に記載されたのは江戸時代で、八十八夜とほぼ同じ頃である。先人たちの経験に基づいた生活の知恵が曆となったのである。

農作物を風雨の被害から守るため、各地で風鎮めの儀式や祭が行われている。「風祭り」もその一つで、その代表的な祭りが、「おわら風の盆」である。二百十日の初秋の風が吹くころにおわら風の盆を迎え、毎年九月一日から三日にかけて行われる。そもそも、前述の通り二百十日の前後は台風の時節。昔から収穫前の稲が風の被害に遭わないよう、豊作を祈願して行われたお祭りを「風の盆」というようになったようである。また、富山の地元では休みのことを「ボン(盆日)」と呼ぶ習わしがあったと言われている。種まき盆、植え付け盆、雨降り盆などがあり、その「盆」に名前の由来があるのではないかと

も言われている。

さ雄鹿の  
朝立つ野辺の 秋萩に

玉と見るまで 置ける白露

大伴家持 『万葉集』

雄鹿が朝たたずむ野辺の秋萩に、玉と見間違うばかりに降りている白露よ、の意。季節はまさに秋涼になりました。教頭 尾内 正彰

## ミャンマーに 新しい校舎を

樹徳中学校・高等学校校長

野口 秀樹



第二学期がスタートしました。身も心も集中してスタートダッシュ。思いきり足を踏み出して、腕を力強く何度も振る。始まりの時はいつも生徒達にダッシュしようと伝えております。

さて、平成十三年五月、私達は発展途上国の子供達のために学校を建設することを目的とした「マイトリー基金」を始めました。物質的・環境的にも大変恵まれていた私達が、そのことに対して感謝を忘れてしまつてはいけません。この気持ち、誰かに喜んでもらう種子にしていこう。そう考えたのです。そして皆で世界に目を向けてみたら、この世界の現状が少しばかり見えてきました。そして、決心したのであります。「そうだ、

同じ今を生きる子供たちのために、学校を造ろう」と。私たちにも無理なく、喜びながらできる方法を考えました。マイトリー基金の拠金は原則として毎月第一水曜日、この日を「粗食の日」などと想定して協力します。ちなみに、「マイトリー」とは「マイトレーヤ（弥勒菩薩）」のことで、慈悲・愛・友情を心に込めた言葉です。

このような趣旨のもと、生徒・職員が十三年間拠金してきた積み重ねが、お陰様で今年の三月に七百万円を超えました。のべ六千七千人の方々の協力を頂いた、貴い基金です。

創立百周年を迎え、生徒達が立ち上げた記念事業としてミャンマーに学校を造るプロジェクトがスタートしました。学校を造ろう、というのには、校舎を造るという意味です。貧しく、学校を建てられない地域の方々に校舎をプレゼントし、現地の方々に運営をお願いします。

ミャンマーは旧名をビルマと言いました。『ビルマの堅琴』という話をご存じでしょうか。この作品に登

場する、堅琴を奏する男の水島上等兵は、群馬県利根郡出身の方がモデルと言われています。占領時代もありましたが、非常に親日的な国であり親近感の持てる国です。

ミャンマーは開発途上国の中でも特に開発が遅れている、後発開発途上国とされています。ですが驚いたことに、ミャンマーは識字率が高い国です。その理由の一つが「僧院」と呼ばれる、寺院に設けられた個人立の学校があることです。それはいわば寺子屋の制度で、僧侶達が読み書きなどを教えています。しかも、生活の苦しい家庭でも無料で教育を受けられるシステムです。国からの補助などはないのですが、地域のた

めにつくられています。日本の江戸時代にも寺子屋が沢山あり、これが明治時代の学制を側面から支える力になった。近代日本の発展に重なるものがあります。ミャンマーでの教育制度は小学校五年、中学校四年、高校二年の計十一年制となっております。その後、海外の大学へ留学するために大学でもう一年学ばなければなりません。二〇一一年に軍事政権から現政権に変わり、中学校までを義務教育とする方針を立てましたが、なかなか上手く進んでいません。財政面、施設面、人材面、そして子どもが労働力として期待されている地域もあるからです。

私はこの夏、生徒達のプロジェクトの成功を期して、学校建築の窓口になっている浄土宗ともいき財団のスタッフと四泊五日でミャンマーのヤンゴンへ行つて参りました。建設地と該当学校の視察。そして昨年建設された別の学校の生徒達に会うことが目的です。この学校はエイエツター寺子屋と言います、ヤンゴン空港から一時間くらい離れた驚くほどの田舎にありました。ここへ行くまでの間、ミャンマーの農村や生活環境、そして人々の姿を車窓から見て参りました。

私が幼かった終戦間もなくの頃の日本よりも、さらに苦しい状況ではないでしょうか。想像を超える現実でした。エイエツター寺子屋は、生徒三百十名、先生六名（全員女性）、小僧さんも入れて和尚さん五名の規模です。教室は土間の掘っ立て小屋、電気はありませんから真つ暗な中で授業が行われます。激しい雨が降れば教室は水浸し。国語、数学、理科、その他の教科書を見せてもらいましたが、教科書のない生徒達も沢山います。また、教科書はお下がりです。このような状況であっても、日本の子供達と同年代の生徒達が真剣に学ぶ姿を見て考えさせられました。この違いは何なのだろう、と。映画『世界の果ての通学路』に登場する、命懸けで学校へ行く子供達と同じような眼で、授業に取り組む子供達。いじらしい程でありました。この学校の現状を見て私も落ち着いてはいられませんでした。

詳細は次の機会といたしますが、校舎の建設に携わる大工さんともお会いしてきました。今月中に着工し、来年の一月には完成する予定です。喜びの種子が時を経て実を結ぶのは、とても嬉しいことです。このことが大きな喜びのスパイラルになることを、期待しております。

合 掌



# 人生の限界は

## あなたが自分で決めた限界

### ペイ・フォワード

私は、本年度より情報商業科の非常勤講師として、樹徳高校に奉職いたしました。百周年を迎える記念すべき年に、本校の一員になれたことを大変うれしく思っています。ここでの出逢いを大切にし、本校の更なる発展に貢献できるように、一所懸命に努めていく所存です。

さて、「出逢いを大切に」と言いましたが、私は、「出逢い」は人を変える力がある、と考えています。ここで言う「出逢い」とは、「人と人との出逢い」、「本やスポーツとの出逢い」、「歌や芸術との出逢い」など、様々なものです。

私は、高校三年生の夏休みに「ペイ・フォワード」という映画に出逢いました。この映画は、ラスベガ

スに住むアルコール依存症の母と、家庭内暴力を振るい、家を出て行った父との間に生まれた、少年トレバーが、世界を変えようとする物語です。

\* \* \*

中学一年生になったばかりの彼は、社会の最初の授業で、シモネット先生と出逢います。先生は、「もし、自分の手で世界を変えたいと思ったら、何をしますか？」という課題を生徒たちに与えます。その課題に対して、トレバーが提案した考えが「ペイ・フォワード」でした。

彼のいう「ペイ・フォワード」とは、他人から受けた善意や思いやりを、与えてくれた相手に返すのではなく、別の三人に渡す（次につなぐ）というものです。

見返りは求めず、自分とは関係のない三人に善行を回すように告げます。そうすれば、やがて世界には善

意の連鎖が広がるはずだと、彼は考えたのです。

トレバーは、初めの善行として、ホームレスであるジュエリーの更生、クラスの子の救済、シモネット先生の幸福実現という三つを実行しようとしています。しかし、これらは上手くいかず、トレバーは自分が世界を変えることは無理だったと、自分の無力さを責めてしまいます。

ところが、これらは失敗しておらず、きちんと次につながっていました。見知らぬ男に助けられた記者が、助けてくれた男を取材すること、トレバーの行った善意の連鎖（ペイ・フォワード）にたどり着きます。トレバーの知らないところで善意の連鎖は広がり、彼の目指した世界が作られ始めていたのです。

この物語のラストで、トレバーは勇気を振りしぼりクラスの子にナイフを刺さず、命を落とすという

彼の母親とシモネット先生は、家で彼が亡くなったというニュースを観ている

際に外の異変に気付きます。そこには、多数のロウソクの火が灯っていました。

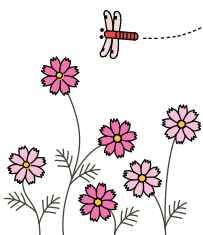
彼の「ペイ・フォワード」は大きく広がり、助けられた多くの人たちが、彼のもとを訪れたのです。

\* \* \*

シモネット先生との出逢いが彼を変え、彼との出逢いが多くの人を変え、世界を変えました。彼のように、私が今までたくさんの人々からいただいた恩恵も、この樹徳高校で繋げていきたいと思えます。

まだまだ、粗削りで至らないところばかりの私ですが、私の授業に出逢った生徒たちのこれからが、少しでも良い方向に変われるような授業づくりに励んでいきます。

(情報商業科 津久井唯)



#### ■樹徳コミュニティセンター「みほ」 7月予定

- (1) ラタンアートスクール  
(3日、24日 いずれも水曜日)
- (2) 販売実習  
(6日、13日、20日 いずれも土曜日)
  - ①相田みつを美術館取り扱い商品
  - ②樹徳高校「心の暦」
  - ③アクセサリー (ネックスプレット)
- (3) 「熱血販売甲子園」準備会

桐生錦町一丁目 盛運橋薬局前

「七草ゼミナール塾」(期日未定)を開催します。若き経営・企業希望者を対象にした、志や倫理観を学ぶための、会社経営者との学習会です。

おしらせ

#### お詫びと訂正

樹妙日より八月号の「今月の法語」が誤っておりました。正しくは次の通りでした。お詫びして訂正いたします。

「挑み続ける者だけが

頂に立つ」

# 夏季海外科学研修

七月十三日から二十二日に、夏季海外科学研修が実施されました。二年SS組の生徒をはじめ、多数の生徒が十日間の行程を終え、帰国しました。研修での様子等についてご報告いたします。

## 「成長のあった

### 海外研修」

二年SS組担任 塚田政利  
わずか十日間の研修でしたが、生徒たちには驚くほどの成長がありました。学校生活では得られない多くの苦労を乗り越えたからでしょう。

生徒の作文から、その格闘の様子を紹介します。

## ◆二年女子

英語の授業では多くの生徒が苦労した。

「先生の話す速さ、周りのみんなの理解度。自分もみんなの一步も二歩も後ろにいることに気づいた。(中略)夜のアクティビティで他のグループに入っていくことが難しく、楽しいはずの活動も楽しいと思えなかった。」  
そんな彼女は意識を改める。

「授業でも分からない所



JPL (ジェット推進研究所) にて

を隣の子に聞いたり、アクティビティでは少しではあるが話しかけるようになった。」

## ◆二年男子

最初は意気込みの低さを感じていたが、自分を変えようとした。

「世界のライバルに会うことができて、私は激しい焦りを覚え、同時に学習に対する貪欲さも生まれた。自分の無知と無力さをことごとく痛感したからだ。」

## ◆二年男子

無力さに気づいて積極的になった生徒は得るものが多かった。

「自分の英語力の無さを痛感した。日常での基本的なことを言えはするので、聞き取れないので会話にならない。(中略)語彙が少なすぎて内容が分からない。私はようやく焦燥感に駆られてきた。」

これではだめだと思った彼は、意識を改める。

「発言も積極的にするようにした。(中略)そうしたら、だんだん英語も聞き取れるようになってきて自信が少しずつついてきた。(中略)帰るころにはあんなに来たくなかったアメリカに、まだここに残っていたいとさえ思うようになっていた。」

## ◆一年女子

彼女も積極的になり、友達が多かった。

「なにもしなくても外国人の友達ができるという安易な考えをしていました。自分が話しかけなくとも向

こうから話しかけてくれる、そんな安易な想像でした。(中略)自分から話そうと努力しました。しかし、英語でコミュニケーションをとることが難しく何回も失敗しました。でもLINEやフェイスブックを通じて今でも繋がっている友達を作ることができました。」

食事のとき、英語で話しかけるのも研修の一環だった。

## ◆一年女子

「彼女は韓国人の親を持つアメリカ生まれのUCLAの学生で、工学部に所属しているそう。それから互いに、何をするためにここに来たのかや、将来の夢について話すことができた。(中略)他のUCLAの学生と英語で話せて、とても大きな収穫になった。」

## ◆一年女子

研修はわずか十日間。今後の努力が大事だ。

「これができるようになりたい、こんな自分になりたいと思ったことはたくさんあった。それが見つけられただけでも、今回研修に



UCLAにて

参加した意味があったと思う。それらをこれからの目標として一歩一歩がんばれば、その時この研修の本当の成果が得られると思う。まず私は、毎日少しでも英語を話すことから始めたい。」

## ◆一年女子

今回の研修だけで何か変わるわけではない。未来を変えるのは普段の地道な積み重ねだけである。

「今思えばこんな素敵な経験はそう簡単にできる訳ではないんだから、もっと勉強しておけばよかったと思います。次にまた機会があれば事前にたくさん学んでおこうと思います。」



# オーストラリア

## 生徒相互訪問

七月十八日から二十五日間、オーストラリア・レッドランズ高校との交換留学を実施しました。引率の松井教諭と生徒からの感想です。

### 「姉妹校交流に

参加して」

一年区組 森口 航太



今回、樹徳高校の代表としてオーストラリアのシドニーにあるレッドランズ高校を訪問してきました。私が今回の訪問で学んだことは三つあります。

まず一つ目は、レッドランズ高校や他の海外の高校では、国際バカロレアという授業のカリキュラムで勉強をすることができるといふ点です。この国際バカロレアとは、国外の大学へ行くことができるようにするために、それに向けての勉強をするカリキュラムのことです。オーストラリアは英語圏のため、イギリスやアメリカの大学に留学するこ

とは珍しくないと聞きませんでした。また、国際バカロレアだけではなく、国内の大学への進学を目指す授業のカリキュラムもありました。オーストラリアでは大

三つ目は、自分の想像とは違う点があったことです。例えば、クラスはなく、代わりにチューターという各々のハウスがありま

二つ目は、オーストラリアは多民族社会・多文化社会であり、お互いを認め合っているという点です。オーストラリアはとも移民が多く、イギリスを筆頭にデンマーク・フィンランドなどの北欧諸国や日本・中国・韓国などのアジア系の生徒たちが

私が一番驚いたのは、約半数の生徒が自分のパソコンを学校に持ってきて授業を受けていたことです。学校の中には、パソコンの不具合が生じたときに対処してくれる専用の部屋もあり

ときなどに使っていました。パソコンやプロジェクトターを生徒自身が使いながら授業を受けていたのは、とても新鮮な感じがしました。

このような三つのことをオーストラリアで実際に体験できたことは、自分にとって良い経験になりました。もちろん、英語力や相手のことを考える力も強化することができました。これからの生活で今回の経験を活かしていきたいです。

英語科 松井 恭央  
生徒、引率教員ともに初めての海外ホームステイ。日本とは異なる文化に触れながら、平日は姉妹校であるレッドランズ高校の生徒とともに学び、休日

ホストファミリーと時間を過ごし、交流を深めた。二週間という短い期間であったが、有意義な経験をしたことができた。オーストラリアで経験した様々なことが、今後、生徒たちにとってかけがえのないものになると確信しています。



ハーバーブリッジをバックに、レッドランズ高校の生徒と記念撮影



シドニー観光2日目に訪れたクイーン・ビクトリア・ビルディング

ました。パソコンを持ってきていない生徒は、常時教室に二十台近くのパソコンがあるので、それを借りて授業を受けていました。パソコンは、授業の内容をメモしたり、自分のプレゼンを発表する

### 参加者

村岡祐伊 (1J2)・森口航太 (1K)  
大橋留美寧 (4-2)・山口馨子 (5-2)

### 日程

- 18日 出発
- 19日～20日 シドニー着  
ホストファミリーと過ごす
- 21日 顔合わせ  
校長先生や先生方にご挨拶  
その後授業
- 22日～25日 通常授業  
25日は放課後のイベント  
(交流を深める懇親会)に参加
- 29日～30日 シドニー観光  
(オペラハウス・ハーバーブリッジ・ロックス・ボタニカルガーデン等)
- 31日 通常授業  
(校長先生と面会、生徒が英語でコミュニケーションを取れるようになった)、翌日帰国

# 一貫校

## 中学校

# だより

### 中一・二合同 高原学校

八月五日～七日に中学校一・二年生合同の高原学校が行われました。今年度は国立公園に指定されている尾瀬にて、大自然の魅力を感じする尾瀬学校です。

一日目はたくみの里でのおめん作りや吹割の滝を見学。おめん作りでは各々が工夫を凝らし、同じ型のおめんから様々な表情を作り出すことができました。

二日目は高原学校の要である尾瀬散策。班に分かれ、



### 生徒の感想

八月五日（火）

たくみの里でのおめん作りがありました。僕はだるまを作ったのですが、予想以上に上手に作れたので良かったです。夕食後にはキャンプファイヤーをしました。人生初のキャンプファイヤーは思ったより火力も強く迫力がありました。

（二年二組 山田翔貴）

八月六日（水）

今日は十二班に分かれて尾瀬散策をしました。ガイドの方の説明がとても面白く、綺麗な花や珍しいトンボも見ることができました。川の水も少し触りましたが、十秒間触れているだけで指が凍りそうになるくらい冷たかったです。

（二年一組 柏瀬由佳）



### 今日は尾瀬

散策があり、ハッチョウトンボやルリイトトンボ、モウセンゴケなど貴重な動物を見ることができました。

尾瀬は寒くて厳しい環境だということを知りました。前日の反省点も生かして臨んだ今日でしたが、最後までみんなをリードできるよう頑張りたいです。

（二年二組 長尾光生）

八月七日（木）

今日は高原学校の最終日でした。ロックハート城や綺麗な雑貨で神秘的な気分を味わうことができました。また自分でブレスレットを作ることもでき、良い思い出になりました。この高原学校ではたくさんの方と学ぶことができました。この経験を生かしてこれからも生活していこうと思います。

（二年一組 成塚花音）



平成27年度第2回入試説明会  
10月4日(土) 9:00～

第2回樹徳中学校モギ試験・  
入試相談会

10月11日(土)  
試験科目：国語・算数

お問い合わせは 0277-45-2257 まで

### ～夏期総合体育大会 結果報告～

#### ◎ダンス部

〈市大会〉最優秀賞 〈県大会〉構成賞

#### ◎陸上部

〈市大会〉	吉田輝	共通男子砲丸投	優勝
	井上ひなの	共通女子砲丸投	準優勝
	赤坂匠	1年男子1500m	優勝
〈県大会〉	吉田輝	共通男子砲丸投	優勝
	赤坂匠	1年男子1500m	準優勝
〈関東大会〉	赤坂匠	1年男子1500m	8位



# 幼稚園だより

## 研修の成果を実践へ 保育の質を高める

### 研修の夏

今年も真夏日や猛暑日の連続で、酷暑の夏休みとなりました。それでも園児たちの始業式には、全員が元

気な姿を見せてくれました。日焼けしてたくましくなった園児の声が園舎に響くとともに活気が戻り、二学期がスタートしました。



「保育の質を高める」研修会に積極的に参加しました。新規採用教員研修会、十年目経験者研修会、群私幼夏季研修会（初級・中級・上級）、教員免許更新講習と、それぞれの立場で参加し、研鑽を積みました。内容は講演・講義・分科会等での実習や保育実践と、園での指導を振り返るとともに、二学期に向けて、子どもたちの保育に生かせるものば

かりで、その実践に期待が高まります。

また、各学年の保育の質を高めるために、園内研修にも取り組みました。研修に参加して得た成果を発表し合い、職員間で共有し、園児の実態を踏まえて、二学期に実践していくことを確認しました。

幼稚園での仕事は毎日忙しく、職員会議や打合せ、研修会が伝達で終わってしまうこともしばしばです。しかし、この夏休みに取り組んだ園内研修では、伝達以外に活動手順や配慮する点、子どもの姿等、柔軟な発想や発言がみられ、子どもに生かせる研修ができました。この夏休みに取り組んだ園内研修を、今後も計画的に開催し、主任を中心とした経験年数による役割等、それぞれが意識し発揮できるようにして、保育の質の向上を図っていきたいと思います。

特に保育における遊びの重要性に焦点をあて、保育の質の向上等、子どもたちの様子や保育者の援助について、さらに話し合いを進め、本園の実態に即した保育の質を高められるよう

に、教職員の協力体制を築いていきたいと思えます。

夏休みに参加した研修会での学びを、今後の幼児教育や自己研鑽に生かし、一致協力して資質の向上や技術の向上を図ってまいります。ご支援ご協力よろしくお願いたします。

### 桐生祭り

#### がんばりました!

八月一日から三日まで開催された「桐生八木節祭り」に、今年も元気いっぱい参加しました。一日(金)は新川公園に集合して「子どもみこしまつり」に参加。お母さん方と一所懸命製作した、園バスに感謝の意を込めた「みこし」を、年長さんと年中さんで担ぎました。年少さんの声を枯らしたの応援もあって「なかよし賞」を受賞しました。

二日(土)には年長さんが参加した「まゆ玉転がし」で、第四位と入賞は逃しましたが、猛暑の中で大変頑張りました。また、七夕飾りコンクールでは、昨年に続き一等賞めざして頑張りました。三等賞を受賞する

ことができたものの、交通の妨げとなって一部飾りを外すなど飾り付け位置の変更を余儀なくされ、来年度に向けての課題も残りしました。それでも、保護者・職員・子どもたちが一体となって取り組み、素晴らしい思い出を作ることができました。

役員さんはじめ、保護者の皆様、準備や当日にと、大変御世話になり心よりお礼申し上げます。

幼稚園長 瀬谷 茂

### 入園願書受け付け開始

九月一日より入園願書の受付が始まりました。

(平日 八時三十分～十八時)

#### ◎募集人員

- ・満三歳児 一〇名
- ・年少 四〇名
- ・年中、年長 若干名

◎入園願書は直接ご来園くださるか、お電話にて問い合わせください。樹徳中・樹徳高校にも用意してあります。

◎平日はいつでも見学できます。まずはお電話ください。

電話 0277 (53) 5571

9月(正精進)の行事予定

日	曜日	高等学校(本校)	一貫校	幼稚園
1	月	始業式 大掃除 就職推薦開始 後期教育実習オリエンテーション	始業式 防災訓練 挨拶運動	新入園児願書受付開始
2	火	後期教育実習開始 珠算練習開始	市街地清掃② 課題確認テスト	避難訓練(不審者対応)
3	水	マイトリー基金拠金日	漢字王⑥	英語(全) 文字・数(年長)
4	木	校内基礎学力テスト②	中2職場体験(～5日)	プール写真撮影 職場体験学習①(樹徳中4名) 体育(全) 文字・数(年中)
5	金			職場体験学習②(樹徳中4名)
6	土		地区別入試説明会(足利・太田)	私立幼稚園教諭就職説明会
7	日			
8	月	LHR	お役に立とう週間③ 挨拶運動	リズム(全)
9	火	生徒募集要項説明会(中学校教員対象)	計算オリンピック⑩	
10	水	生徒募集要項説明会(学習塾対象) ITS研修		英語(全) 文字・数(年長)
11	木			体育(全) 文字・数(年中)
12	金	交通安全マナーアップ運動②		プール納め 8・9月生まれお誕生会
13	土	中学生1日体験入学②	入試パワーアップ授業	
14	日	第22回聖歌隊定期コンサート(桐生中央公民館)		
15	月	レッドランズ高校留学生来日	敬老の日	
16	火	就職選考(入社試験)開始	計算オリンピック⑪	
17	水	献血(～19日) オーバーコート注文		群私幼研究委員会 英語(全)文字・数(年長)
18	木		漢字王⑦ 授業参観	体育(全) 文字・数(年中)
19	金			
20	土		入試パワーアップ授業	
21	日	第31回吹奏楽部定期コンサート (笠懸野文化ホール・パル)		
22	月	LHR		リズム(全)
23	火		秋分の日	
24	水	私学教科研修(共愛学園中学高等学校) 珠算競技(～26日)	計算オリンピック⑫	英語(全) 文字・数(年長) レッドランズ高校留学生来園
25	木		早朝自主学习(～10月2日)	体育(全) 文字・数(年中)
26	金			園外保育
27	土			
28	日	全商情報処理検定 レッドランズ高校留学生帰国		
29	月	朝礼 教科主任会 漢字練習開始	挨拶運動	リズム(全)
30	火	出欠統計 女子制服アフターサービス		

※ 1日は高等学校・一貫校・幼稚園の校内安全点検日、5日は授業料・保育料の納入日です



樹徳高等学校  
樹徳中学校  
樹徳幼稚園

〒376-0023 群馬県桐生市錦町一丁目1番20号  
TEL. 0277-45-2258 Fax. 0277-47-1671

〒376-0022 群馬県桐生市稲荷町4-12  
TEL. 0277-45-2257 Fax. 0277-45-2262

〒376-0013 群馬県桐生市広沢町三丁目4475  
TEL. 0277-53-5571 Fax. 0277-53-5572

平成26年に、明照学園は  
創立100周年を迎えました

E-mail office@po.jutoku.ed.jp

URL http://www.jutoku.ed.jp/

発行責任者 野口秀樹  
印刷所 太陽印刷工業(株)

夢は大きく 根はふかく